

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援事業所ひろば		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 17日		2025年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 49	(回答者数)	26
○従業員評価実施期間	2025年 2月 28日		2025年 3月 7日
○従業員評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通園先の保育園・認定こども園・幼稚園の先生を対象に学習会を行っている。	年2回行い、参加者からの意見を取り入れながら様々なテーマを考えたり、療育の場を知ってもらうよう工夫している。ホームページやメール等で発信している。	療育について知っていただく機会を設けていく。
2	室内には大型遊具や複数の吊り遊具を設置している。外遊びができるスペースもあり、夏には水あそびなどの活動もしている。	遊びながら体幹の基礎を作ります。吊り遊具は、子どもの好みや年齢に合わせて、大人と一緒に乗ったり、複数で乗るなど楽しさを共有できるように工夫する。	身体を動かす楽しさを、大人と一緒に感じられるようあそびの工夫をしていく。 ひとりひとりのペースを保障し、自分から遊びに向かう一歩が出せる事を大切にする。
3	1か月に1回、保護者グループを実施している。また、個別の相談も応じるようしている。	必要に応じて職員体制を整え、保護者が一人で悩むことのないよう、子育てや子どもの特性、日頃感じている事などを話し、交流を深めながら職員と共に一緒に考える場を作っている。	日頃から保護者がいつでも相談してもらえるようにコミュニケーションをとるよう心掛けている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ブレイルームに仕切りがなく、活動のメリハリが付けにくい。	遊びに目移りしたり、屋外が見えてしまうなど周囲が気になってしまうことがあり、グループによりあそびの内容や人数の配慮が必要。	必要に応じて、マットで仕切りをつけたり、人数を分けるなど、一人ひとりが安心して遊べる空間を工夫していく。
2			
3			